

今月の
トピックス

JCOG2303 脳腫瘍グループ 新規試験

脳腫瘍グループの新しい試験であるJCOG2303「可及的摘出されたIDH変異型星細胞腫の術後化学放射線療法に対する待機化学放射線療法の非劣性を検証するランダム化比較第III相試験 (PATIENT)」が承認され間もなく登録開始となります。コンセプト作成段階よりご支援・ご協力を頂いたグループの先生方、JCOGデータセンター・運営事務局の皆様、関係者の皆様にご心より感謝申し上げます。

本試験の対象疾患である「IDH変異型星細胞腫」は、人口100万人あたり年間2.5-5人程度発症する稀少がんです。5年生存割合は50~70%ですが、近年の手術技術の進歩により腫瘍の切除率が向上しており、治療成績の向上が見込まれています。IDH変異型星細胞腫は悪性度に応じてGrade 2から4に分類されますが、手術で腫瘍が良好に切除できても、Grade 2は術後経過観察する一方で、Grade 3と4には一律に化学放射線療法を施すことを標準治療としてきました。しかしながら、悪性脳腫瘍に対する化学放射線療法の有効性は十分に検証されているものの、患者さんの就業や日常生活を脅かす高次脳機能障害という化学放射線療法による晩期障害は現在の標準治療には考慮されていません。長期予後が見込まれる可及的摘出されたIDH変異型星細胞腫に対して、術後一律に化学放射線療法を施すことの十分な根拠がないのが現状です。



研究代表者
村垣善浩



研究事務局
木下 学



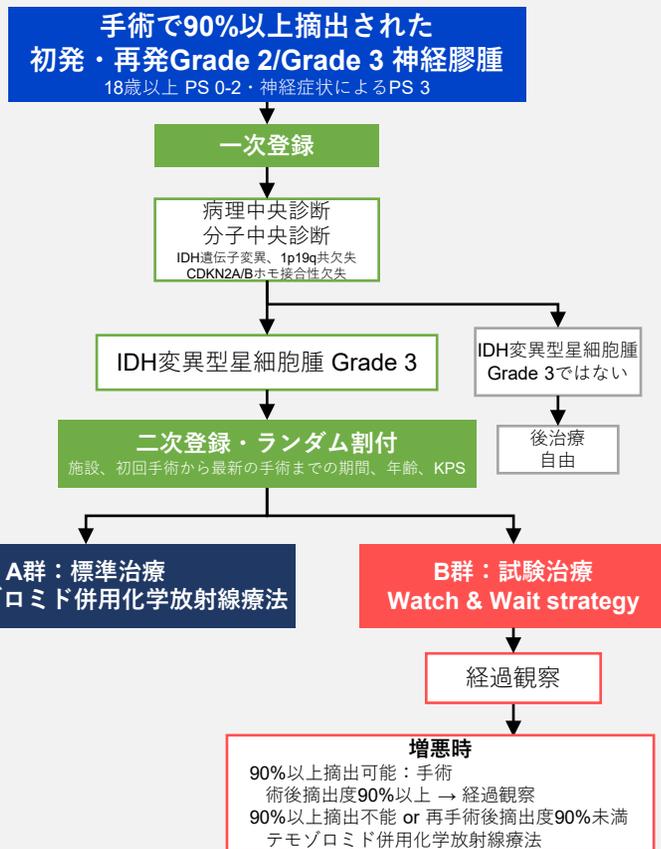
研究事務局
都築俊介

本試験は可及的摘出し、精密な分子診断と病理診断を経たGrade 3のIDH変異型星細胞腫に対する術後化学放射線療法の是非を問うものになります。

IDH変異型星細胞腫はGrade 2と3で悪性度の違いがかつて考えられていたよりも遥かに少ないことがわかりつつあり、さらにIDH変異型星細胞腫を可及的に摘出できる場面が手術技術の進歩により増えている昨今、可及的摘出されたGrade 3のIDH変異型星細胞腫に対して術後に施している化学放射線療法をGrade 2と同様に温存できる可能性(Watch & Wait strategy)が見えてきました。国外でも、IDH変異型星細胞腫に対する術後化学放射線療法の必要性は不明確であり、今後検討しなければならない課題に挙げられていますが、この臨床疑問に対する前向き臨床研究は存在しません。

本試験により、可及的摘出されたIDH変異型星細胞腫に対する最適な治療戦略を明らかにすることで、患者さんに対する最も安全で有効な治療を提供できるようになるだけでなく、IDH変異型星細胞腫に対して精密な分子診断と病理診断を行うことで、この疾患の本質に迫ることもできます。試験の完遂と成功には皆様のご指導、ご協力が不可欠です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

研究代表者 村垣善浩 神戸大学医学部附属病院
研究事務局 木下 学 旭川医科大学
都築俊介 東京女子医科大学



JCOG試験の結果レイサマリー

レイサマリー(Lay summary)試験に参加いただいた患者さんへ向けた、試験の結果を記載した文書を公開中です。

NEW! 乳がんグループJCOG1607

https://jcoг.jp/general/ppic/jcoг1607_lay_summary/index.html

NEW! 食道がんグループJCOG1409

https://jcoг.jp/general/ppic/jcoг1409_lay_summary/index.html

JCOG研究に関わる研究結果やイベント情報など最新情報を発信しますので、ぜひフォローしてくださいね!
X(Twitter) ユーザーネーム: @JCOG_official URL: https://x.com/JCOG_official
Facebookページ URL: https://www.facebook.com/JCOG_official
JCOGウェブサイトのトップページからも関連ページへアクセスいただけます。

JCOG研究の論文公表



◇胃がんグループ JCOG0501S3 林 雅人 先生

<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/38703333/>

Prognostic Impact of Post-operative Infectious Complications in Gastric Cancer Patients Receiving Neoadjuvant Chemotherapy: Post Hoc Analysis of a Randomized Controlled Trial, JCOG0501, The Journal of Gastrointestinal Cancer, 2024 May 4, Online ahead of print

◇肺がん外科グループ 多根 健太 先生

JCOG2012デザインペーパー

<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/38693750/>

A randomized phase III trial of postoperative surveillance for pathological stage II and IIIA non-small cell lung cancer (JCOG2012, PHOENIX), Japanese Journal of Clinical Oncology, 2024 May 1, Online ahead of print

担当医別月間登録数



- ◇ 肺がん内科グループ(月間登録数:2)
吉岡弘鎮先生/関西医科大学附属病院
佐野将宏先生/国立病院機構名古屋医療センター
- ◇ 肺がん外科グループ(月間登録数:5)
遠藤誠先生/山形県立中央病院
- ◇ 胃がんグループ(月間登録数:6)
加野将之先生/千葉県がんセンター
- ◇ 食道がんグループ(月間登録数:3)
小柳和夫先生/東海大学医学部
- ◇ リンパ腫グループ(月間登録数:2)
山内寛彦先生/がん研究会有明病院
松木絵里先生/慶應義塾大学病院
矢野真吾先生/東京慈恵会医科大学附属病院
小林美希先生/日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院
- ◇ 大腸がんグループ(月間登録数:3)
眞部祥一先生/静岡県立静岡がんセンター
- ◇ 泌尿器科腫瘍グループ(月間登録数:2)
橋根勝義先生/国立病院機構四国がんセンター
山口徳也先生/鳥取大学医学部
森啓一郎先生/東京慈恵会医科大学附属病院
- ◇ 脳腫瘍グループ(月間登録数:2)
大岡史治先生/名古屋大学医学部
- ◇ 肝胆膵グループ(月間登録数:3)
白川博文先生/栃木県立がんセンター
- ◇ 消化器内視鏡グループ(月間登録数:2)
菅原徳瑛先生/大阪医科薬科大学

(担当医別最多登録数が1例のグループは割愛しています)

国立がん研究センター FUTUREプロジェクト

「満たされない患者ニーズを解決するための内科系研究プロジェクト」
https://www.ncc.go.jp/jp/d004/donation/future_project/index.html

グループごと月間登録数



登録数月次レポート

<https://secure.jcog.jp/DC/DOC/member/report/index.html>

グループ	3月	4月	5月	合計
肺がん外科	51	60	52	163
胃がん	47	43	40	130
大腸がん	44	42	41	127
肝胆膵	20	24	34	78
食道がん	29	18	29	76
リンパ腫	24	24	22	70
肺がん内科	14	14	14	42
放射線治療	10	14	4	28
消化器内視鏡	8	8	12	28
泌尿器科腫瘍	5	6	10	21
頭頸部がん	4	9	7	20
脳腫瘍	5	4	6	15
骨軟部腫瘍	6	3	5	14
乳がん	5	1	2	8
皮膚腫瘍	1	2	2	5
婦人科腫瘍	0	0	0	0
合計	273	272	280	825



JCOGデータセンターより

● 2024年5月の登録例は280例でした

5月も登録中の試験のある全てのグループから1例以上の登録がありました。診療などでお忙しいところ、迅速なCRFのご提出 & 沢山のご登録ありがとうございました。

